

# 広報 なぎじん

No. 83  
1982年10月

村章

(毎月1日発行)



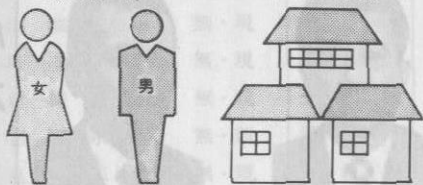
### ▲いつまでもお元気で

9月15日～21日は老人福祉週間。長寿をみんなで祝うとともに高齢者問題について考えようというもの。村では今年米寿を迎えた33人、白寿を迎えた4人に記念品と祝金、また百歳以上の方3人に対して記念品を贈呈した。さらに15日の敬老の日には役場ホールに450人のお年寄を招待して敬老会を催した。(写真=松田村長から記念品を受け取る今年102歳の上間タマさん)

### 今帰仁村の人口(昭和57年8月31日現在)

(9,909人(-3))

( ) 内は前月比



編集発行：今帰仁村役場総務課秘書広報係  
〒905-04 沖縄県今帰仁村字仲宗根219 電話098056-2101  
印刷：沖縄高速印刷株式会社  
南風原町字兼城577 電話0988-89-5513

### 今月の主な内容

- 二・三 二〇人の村議員きまら  
九四・九一%の高投票率を記録
- 四・五 **村内文化財散歩**  
金石文から読む歴史  
五五年国調から  
異なる昼と夜の村人口
- 七 ホッケー教室を開催  
小学校五・六年生を対象に
- 八・九 村落の統合は土地整理事業後  
今帰仁村の村落(字)変遷
- 十 長崎歌謡祭で優秀賞に  
仲宗根の宮里多起子さん
- 十一 湧川チームが優勝  
少女バスケット大会で

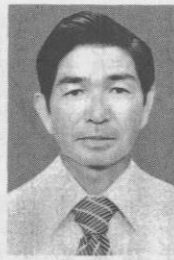
投票場別投票数及び投票率

投票区	男女	当日有権者	投票者	棄権者	投票率
第1投票区	男	1,106	1,049	55	94.85%
	女	1,158	1,111	47	95.94
	計	2,264	2,160	102	95.41
第2投票区	男	791	768	23	97.09
	女	862	774	88	89.79
	計	1,653	1,542	111	93.28
第3投票区	男	648	625	23	96.45
	女	683	662	21	96.93
	計	1,331	1,287	44	96.69
第4投票区	男	466	437	29	93.78
	女	478	460	18	96.23
	計	944	897	47	95.02
第5投票区	男	135	119	16	88.15
	女	140	133	7	95.00
	計	275	252	23	91.64
計	男	3,146	2,998	146	95.30
	女	3,321	3,140	181	94.55
	計	6,467	6,138	327	94.91

今帰仁村議会議員選挙得票数

氏名	所属	字名	得票数
当 与那嶺 幸人	無・新	崎山	385
当 喜屋武 治樹	共・新	仲尾次	325
当 沢 岷 安博	無・新	湧川	324
当 大城 幸輝	無・現	崎山	306
当 玉城 千喜	無・現	越地	278
当 上里 朝榮	無・現	玉城	274
当 新城 元一	無・現	今泊	272・110
当 佐久川 忠英	無・元	謝名	272
当 謝花 喜祐	無・現	渡喜仁	266
当 仲原 源松	無・新	今泊	252
当 島袋 順章	無・現	上運	244
当 田港 朝明	無・新	天底	242
当 島袋 輝志雄	無・現	諸志	241
当 親川 秋男	無・現	今泊	238
当 渡久山 祐弘	無・現	運天	237
当 山城 正	無・現	諸志	233・017
当 松本 光弘	無・現	仲宗根	232
当 喜納 智	無・現	古宇利	230
当 山城 辰雄	無・現	仲尾次	228・982
当 川上 正一	無・現	湧川	225
当 新城 安男	無・現	玉城	217・889
当 新嘉陽 宗敬	無・新	湧川	206・556
当 嘉陽 宗一	無・現	呉山	191・443
当 仲里 邦夫	無・現	仲宗根	177

投票総数 6138  
 有効票数 6098  
 無効票数 40



島袋輝志雄(49) 諸志171



田港朝明(56) 天底1287



島袋順章(53) 上運1272



山城正(44) 諸志449



渡久山祐弘(53) 運天774



親川秋男(59) 今泊144



山城辰雄(54) 仲尾次70



喜納智(55) 古宇利1384



松本光弘(53) 仲宗根212-2

**新議員に  
 当選証書を交付**

当選証書交付式は、九月二五日午前十時から村役場ホールで行われ、新城俊雄村選挙管理委員長より二十人の各議員に証書が交付されました。

証書授与の後、新城委員長は「村民の期待にそうよう頑張っしてほしい」とあいさつ。また松田村長も「村発展のため気持ち



▶当選証書交付式

期待をになって

20人の  
 村議員きまる

94.91%の高投票率を記録



▲多くの村民が見守る中で行われた開票(9月20日役場ホール)

任期満了に伴う今帰仁村議会議員選挙は、九月十二日告示され、十九日投票、翌二十日開票されました。二十の議席に対し一四人が立候補するという少数激戦の結果、現職十四人、新人五人、元一人の二十人の新議員が誕生しました。

投票率は九四・九一%と、前回(五十二年九月三日執行、九五・五六%)よりわずかに下まわりましたが、地域で最も関心の深い選挙だけに、高投票率を記録しました。

当選した方々は、向こう四年間の住民の信託を受けたわけですが、今帰仁村発展のために、住民の先頭にたつて活躍してほしいものとす。



玉城千喜(63) 越地39



大城幸輝(52) 崎山377



沢岷安博(49) 湧川78



喜屋武治樹(31) 仲尾次27



与那嶺幸人(35) 崎山255



仲原源松(50) 今泊118



謝花喜祐(54) 渡喜仁162



佐久川忠英(69) 謝名279



新城元一(56) 今泊115



上里朝榮(62) 玉城302

当選者の顔ぶれ

村内の歴史散歩

金石文から読む歴史③

はじめに

村内の歴史散歩も今回で三回目です。村内といながら屋我地島の運天原に足をのぼすのはおかしいといわれそうですが、理由はあとでだんだん判明するとおもいますので、しばらくお付きあいをねがいます。

運天原の「オランダ墓」については、諸種の地図に示され、いい伝えによってもその存在は知られているようですが、内容については意外と知られていないようです。わたしも十年近く前に「国頭郡誌」で知って以来ますます関心を深めた次第です。

現在同地へ行くには、羽地内海を迂回して屋我地に渡り、済井出、運天原を経て、そこから波打際伝いに約三〇〇m歩きます。但し、満潮時には通路がありませんから注意が必要です。正確な地名は名護市字運天原の山岳（サンタキ）。今帰仁村下運天の船付場から南東七〇〇m、ワルミ海峡を隔てて最短距離は

現状と読み下し

さて墓は岬突端大岩の北蔭に野面石で亀甲墓風に積まれ、その背に当る部分に、ここに示す拓本のような二基の墓石（各タテ七五cm、ヨコ五一cm、厚八cm）が並べ立てかけられています。一基は完形ですが、一基は四つに割れており、碑面は上向きなので、風雨に曝されて保存状態はきわめて悪いといえます。

上部ヨコ枠に

は中央に十字架を配し、四文字は永き光之を照らすと読めます。右行の細字は国名・艦種・艦名の順に、大フランス国・戦船フレガット・クレオパトル。



歴史的背景

少し註記すれば、現在は通例仏蘭西と当てるのを、朗の字としているのが印象的です。またフレガットとは、戦艦、巡洋艦駆逐艦などのような艦種を表わし、英語でいえばフリゲート艦（Frigate）で当時の海戦では主要戦力となった軍艦。コルヴェット（Corvette）はひと廻り小さく快速警備艇と訳されるようです。左ページ上のカットは当時のイギリスで発行されていた絵入り新聞（THE ILLUSTRATED LONDON NEWS）一八五五・三通信掲載の銅版画で、大型がフリゲート、遠景の二隻がコルヴェットです。

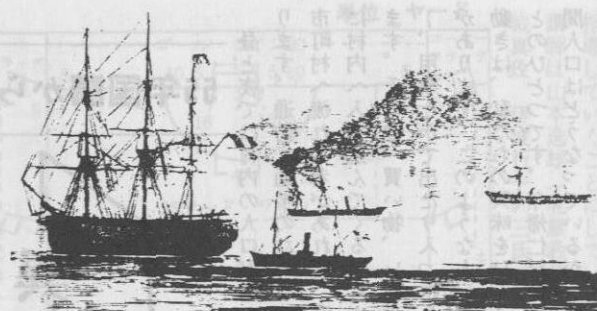
西暦一八四六年とはどんな時代だったのでしょうか。日本史では黒船・浦賀・ペリーと連想ゲーム風に教えていますが、それは一八五三年のこと。実際は一八〇〇年代に入るとアメリカ、イギリス、ロシア等の軍艦が長崎あたりにしきりに出沒して通商交渉を求めていました。西欧諸国では政治・経済・思想・技術等さまざまな理由があるいはそれらの複合的な動機から東洋侵略を競っていました。例えばイギリスはインドの植民地化を進め一八四〇年一四二年のアヘン戦争によって中国（清）との南京条約を結び、自由通商の権利と東洋への侵略根拠地および市場を獲得しました。フランスやアメリカも続いて一八四四年にそれぞれ中国との不平等条約を結ぶことによって中国南部を制します。要するにそれらの行為は産業革命による工業生産品の販売市場と原料購入市場として中国をはじめ東洋諸国を資本主義市場として編成することでした。当時の琉球の記録集である「球陽」によれば、先島はじめ沖縄各地に頻りに黒船が出沒し、各地に上陸して家畜や野菜と綿製品とを、ほとんど強制的に交換して去る光景がみられました。

運天港では

れば正誤は一目瞭然といえます。

今後の課題

読み下しの項で触れたように被葬者の個人名とクリスチャンネームの判読は現状ではどうにも無理ですが、方法があります。それは、時と所と艦名が判明した現在、本国か同大使館に照会することです。そうすれば当時の、例えば航海日誌や教会記録を手繰って子孫にまで行きつくかも知れません。現に大正時代に故国の人が訪れて墓前で祈りが行われたという話もあります。次に修復保存ですが、現状の項で触れたような状態では、磨減は時間の問題です。もちろん名護市が担当すべきでしょうが歴史的経緯からしても、次第によつては今帰仁村が協力関係をもつべきだとも思います。相互に知恵を出しあい、一世紀以上にわたって継承されたところ、民族や国家を超えて人の死を悲しむやさしいところを、わたしたち子孫がたしかめあって、再び交流が生まれたらどんなに幸いなことでしょう。一三六年の年月はそんなに昔のことではないのです。何しろ曾祖父の時代のことなのですから。村文化財保存調査委員 村上仁賢（拓本も筆者）



そのような時代の中で、一八四四年、フランス軍艦は琉球との和親・交易・布教を求めますが王府は拒絶します。その際の子告通り二年後の一八四六年六月六日（旧暦四月七日）三隻のフランス軍艦が運天港に入港したのです。旗艦クレオパトル号、それにサビーヌ号、ビクトリアス号です。那覇で交渉に失敗した一行は六月八日、司令官セシル自ら兵を率いて上運天に上陸し示威行進をしたり、今帰仁の地頭代を艦上に招待して交渉交渉しますが遂に失敗。三隻は七月五日まで碇泊しました。碇泊中か、その病氣は何か、また伝説のようにハブに咬まれたか、とにかくフランス艦隊は二名の死者を出しました。埋葬は通商を拒絶する首里に依頼できないとすれば、今帰仁番所に依頼するよりほかにありません。石の調達、墓碑銘の撰文、石工等現在のところ皆目不明ですが、墓の位置の選定については、甚だ文学的な想像をしてみます。

地続きでなく、しかも常に視野にある場所、すなわち向う岸の人家から離れた岩鼻、後日の責任を吉なら負い、凶なら負わずに済む場所。場所の選定に困って鳩首協議する番所の人々が浮んでくるような気がします。逆にサンタキに埋葬されたフラ

建立

屋我地は前述のように現在は名護市に属しますが、当時の北部における政治の中心地は今帰仁間切の運天番所で、ここには地頭代がいました。だからフランス艦隊も通商を求めたわけですね。航海中か、



関係文献

現在までこの墓に関心を寄せた記録が幾つかあります。先ず明治二七年刊・笹森儀助著「南島探検」ですが、著者はその三七〇ページに、運天港からクリ舟で阿蘭陀墓を訪ねます。その記録は著しい誤写です。紙面の都合で転載できませんが、全く判読できなかったことと、当時既に割れていたのではないかと想像させます。次に大正七年刊島袋源一郎著「国頭郡誌」。著者はおそらく現物をみていないし、前掲の「南島探検」をそっくり

引用したといっているほど誤写が酷似しているのです。ただし上部の十字架の文様は正されています。戦後一九七〇年刊・沖繩風土記刊行会編「名護市の今昔」にもオランダ墓の項があり現地の全景写真が掲載されていますが墓碑銘は省略、ただ没年月日は次のとおり。「救世一八四六年儒安月十五日病没」「救世一八四六年儒安月二十日病没」。最近では仲宗根重吉著「屋我地郷土誌」に墓の存在のみ紹介されていますが、一八四四年とあるのは六年の誤植のようです。以上わたしの手元にある資料は何らかの誤りがありますが、その意味からしても、拓本によ

55年国調から

異なる昼と夜の村人口

多い名護市・本部町との出入り

昼と夜では村内の人口が異なります。通勤・通学のため、他市町村へ流入する者があれば、逆に村内へ入り込んでくる者もいます。その他、買い物、レジャー、用事とかで出入り入ったりがあります。このような人口の動きは、私たちの興味をひくことのひとつです。今帰仁村の昼間人口はどうなっているか、国調の結果を用い、通学先・従業先がどこにあるかを算出してみます。

内に入り込んでくる者は、通学者九五人、就業者二八三人の計三七八人です。出ていく者、入ってくる者を差引きすると、四七六人の流出超過となっています。従って夜間人口（夜は住んでいるところに戻る）ことから常

住人口でとらえられますは九、五九三人ですが、昼間は四七六人減ることになりますので、九、一七一人となります。もっとも、この場合は買い物とかの非定常的移動は把握が困難で考慮されなく、実際はもっと少くなる

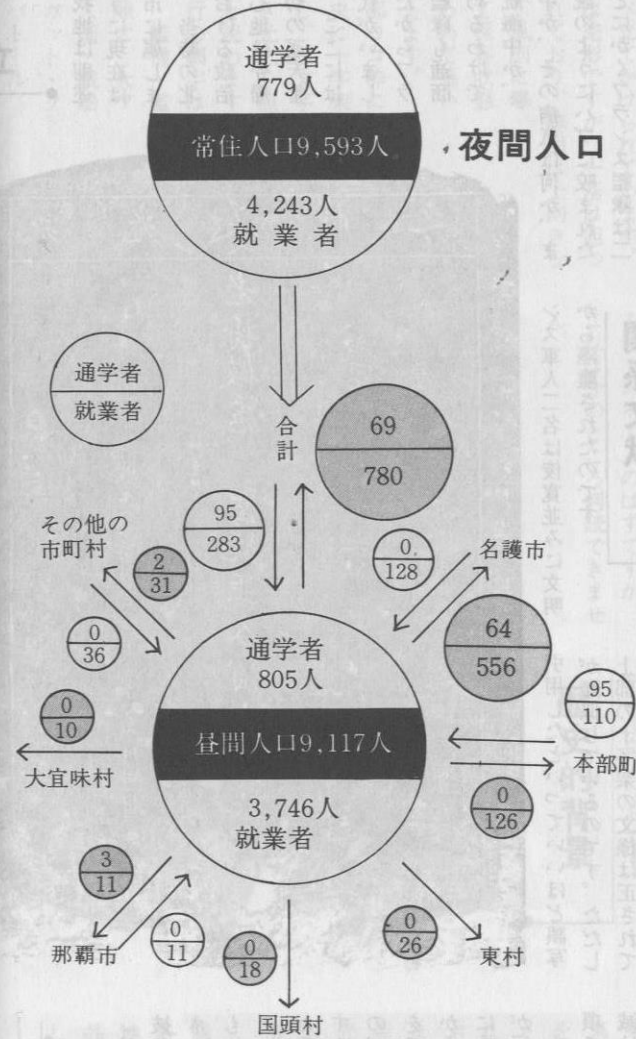
でしよう。近年、交通・情報機関の発達などに伴って、人々の動きも活発化し広域化しつつあります。それは全体的にみられる傾向で都市近郊へいけばいくほどその割合は大きい。本村の場合は、常住就業者の十八・四%、常住通学者の八・九%が他市町村で従業・通学しています。又村内における昼間の全就業者の七・六%。全通学者の十一・八%が他市町村の人達となっています（以上いずれも十五歳以上）。出

入りの多くが、隣接している名護市、本部町で占めています。他市町村で従業している者を産業別にみると、建設業、製造業、卸売、小売業、サービス業就業者がほとんどで、第一産業就業者はきわめて少ないのが特徴です。

〈企画財政課統計係〉

昭和五十五年現在、今帰仁村に住んでいる人が九、五九三人で、そのうち通学している者が七七九人、就業している者が四、二四三人（いずれも十五歳以上十五歳未満と十五歳以上で通学・従業もしていない者が四、五五七人、労働状態不詳が十四人となっています。うち通学先が村外にある者が六九人、従業先が村外の者七八〇人、それに十五歳未満の人で通学・従業のため村外へ行く者（身障者等）が五人で、合計八五四人の人達が他市町村へ流れています。反対に村

昼間の人口の移動状況



(注) 通学者、就業者は15才以上、尚15才未満で村外で従業、通学している者が5人います。

昼間人口=常住人口  
- { 従業先が村外にある者 }  
+ { (村外常住者で従業先が村内) + (村外常住者で通学先が村内) }  
= 9593 - { (780) + (69) + (5) } + { (283) + (95) }  
= 9117人

ホッケー教室を開催

小学校五・六年生を対象に

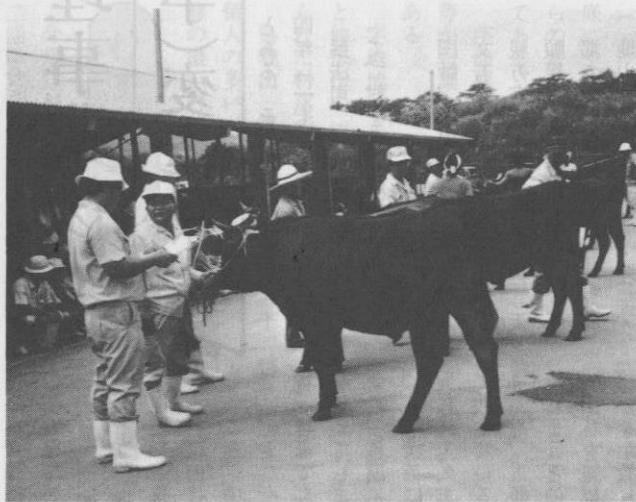
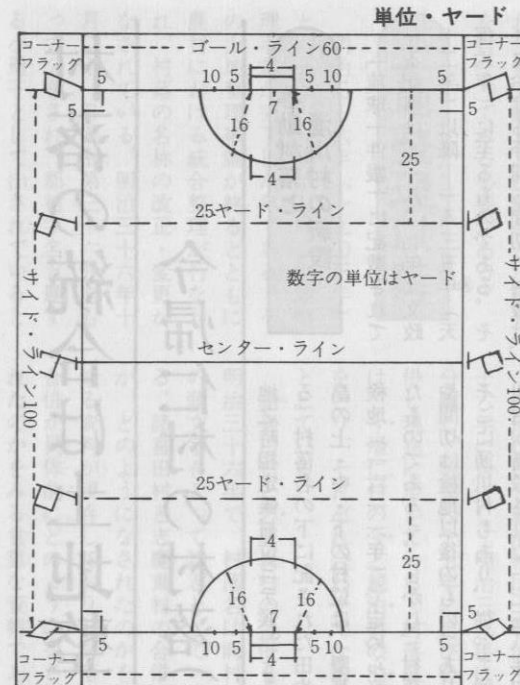
村教育委員会国体競技力向上担当では、十月十六日から十一月末までの土曜・日曜日を利用して「ホッケー教室」を開催します。

これは、昭和六十二年に行われる第四回国体に向けて、競技人口の拡大と技術の向上を図ろうというものです。特に開催時における少年男子・女子（高校生）のチームづくりをめざし、小学校五年・六年生を重点的に指導していくことにしています。講師は山本逸雄（北農教諭）宮城真政、伊波行一の三氏。

なお、六十二年国体では、本村でホッケーが行われることから、村教育委員会では多くの村民（一般、中高生）が参加しルールを修得してほしい、と呼びかけています。

日程表: 十月十六日(土) 十月十七日(日) 十月二十三日(土) 十月二十四日(日) 十月三十日(土) 十月三十一日(日) 十一月六日(土)

ホッケーグラウンド (91.4メートル×54.8メートル)



年々向上する村畜産業

畜産共進会開催

村役場主催による村畜産共進会が、九月十日午前十時より村家畜セリ市場で行われた。これは村畜産業の発展と優良家畜の育成を期したもので、北部地区

畜産共進会への派遣審査も兼ねている。当日は多数の畜産農家が見守る中、北部家畜保健所職員らにより厳重な審査が行われた。審査委員長の玉城賢三北部

家畜保健所長は、審査報告の中で「技術の向上が著しい。今後は全国和牛改良組合の認定組織を作り、全国に出品できる体制を整えてほしい」と講評をのべた。なお恒例の沖繩県農林水産部長賞は、黒毛和種(経産)の部で優等の金城寛一氏に、共済賞は種雄隊の部で優

- 達美氏に贈られた。また、今回優秀な成績を納めた家畜は十月十五日村家畜セリ市場で行われる北部地区畜産共進会に村代表として出品される。各部門の結果は次のとおり。黒毛和種(未經産)の部: 優等||金城寛一(仲宗根)一等||金城光吉(今泊) 渡久山祐弘(運天) 比嘉真松(呉我山) 子牛雌の部: 優等||玉城信雄(越地) 一等||内間真昭(与那嶺) 大城喜英(平敷) 小那覇安秀(渡喜仁) 子牛雄の部: 優等||大城幸一(上運天) 一等||新城浦吉(今泊) 伊野波盛達(今泊) 玉城真常(越地) 種豚(未經産)の部: 優等||仲本達美(崎山) 一等||大城義雄(崎山) 仲村守弘(勢理客) 種豚(経産)の部: 優等||田港朝明(湧川) 一等||仲村繁(勢理客) 喜屋武勇(渡喜仁) 種雄隊の部: 優等||仲本達美(崎山) 一等||具志忠吉(渡喜仁) 田港朝明(湧川) 照屋全道(渡喜仁)

# 村落の統合は土地整理事業後

## 今帰仁村の村落(字)変遷(下)

### 移動村落と湧川村の新設

「琉球一件帳」に記載されている記事は、一八二九年(文政十二年)以降、一八三五年(天保六年)に至るものである。そこにおける今帰仁間切の村数は、二十一ヶ村ある。享保の盛増(一七二七年)以降に編纂された「御当国御高並諸上納里積記」においても、「琉球一件帳」と同じく二十一ヶ村である。それには、中城村と上間村が次のように記されている。

中城 式ヶ村 田中  
上間 式ヶ村 島中

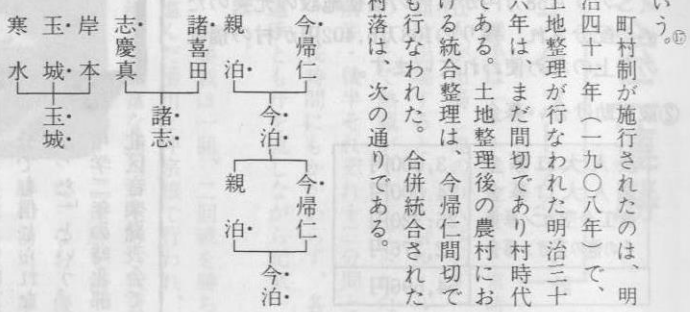
中城村と上間村が並立され、その下に式ヶ村とあり、さらに田中と島中と村位まで記されている。「琉球一件帳」と全く同じ村落数・名であることから、今帰仁村の村落(字)変遷表(上)では「一件帳」に代表させた。「御当国御高並諸上納里積記」の、「御当国中村位定之事」の書き出しに「比村位ハ慶長御檢

地之時相定候村位ニテ候」とある。村落名の下に記された田や島の上・中・下の村位は、慶長検地(一六一一年)で定められたものであろう。しかし、村落や間切は検地以後のものであり、そこに湧川村もあり、従って湧川村が新設された一七三八年以降の村落となる。

「由来記」・「旧記」にてでてくる村落と「琉球一件帳」にて表記法で、  
郡(こうり)↓古宇利  
と記され、現在の表記と同じになる。そこに、新しく湧川村と上間村が登場してくる。  
湧川村の新設について、「球陽」尚敬二十六年(一七三八年)の条は、  
今帰仁郡に湧川邑を創建す。

今帰仁郡は民居繁衍し、山林甚だ狭く、材木用に足らず。乾隆元年、検者・曾長奏請し、羽地山林を分別して今帰仁郡に属せしむ。依りて湧川邑を建てて山林を看守せしむ。

町村制が施行されたのは、明治四十一年(一九〇八年)で、土地整理が行われた明治三十六年(一八七七年)から一八九三年(明治二十六年)の間である。土地整理後の農村における統合整理は、今帰仁間切でも行なわれた。合併統合された村落は、次の通りである。



### 土地整理以降

#### 明治三十六年(一九〇三年)

といえ、沖繩における土地整理事業が完了した年である。その土地整理事業が終るとともに、農村における統合整理が行なわれ、村落の名称の改正・変更がなされている。明治三十六年十月二十一日県令第三十六号をもって公布され、郡村字名と題する小冊子として出されていると

とある。その二年前の尚敬二十四年(一七三六年)の条には、  
祭法司、諸郡の山林を巡見して、村を各処に移す。

国師、法司祭温(具志頭親方文若)、御物奉行毛鴻基(奥平親方安三)・高奉行東景仁(天願親雲上政房)を率領し、諸郡の山林を巡見す。而して羽地山林内呉我・桃原・我部・松田・振慶名等の村、名護山林内山入端村、本部泉崎浜・石加波・健堅・辺名地等の村は、一処に集在して、農地最も狭く、動もすれば山林を焼き以て農地に供す。今帰仁山林は甚だ狭し。乃ち呉我村等五邑を以て、山林外に移徒して、其の山林の地は今帰仁県

にある。その二年前の尚敬二十四年(一七三六年)の条には、  
祭法司、諸郡の山林を巡見して、村を各処に移す。



岸本村・玉城村・寒水村の合併は、明治三十六年である。複数の村落合併でありながら、三村落から文字をとらず、その中のひとつである玉城をそのまま合併村落の名称としている。合併して八〇年近くになりながら、祭祀や村行事などで、現在でも合併以前の村落形態の名残りを伺わしめることがある。

明治四十一年(一九〇八年)に、町村制が施行され、間切は村(ソシ)、村(ムラ)は字へと改められた。  
字呉我山は、大正九年(一九二〇年)の設立で、中山・古拝(元湧川)や、美(三)謝(元天底)や、西アザナ(元玉城)からの寄り集まって造られた村落である。

字渡喜仁は、勢理客や上運天等から集まって造られた村落である。  
字越地は、昭和十二年に謝名と仲宗根の一部から集まって造られた村落である。

呉我山・渡喜仁・越地は、寄留人の多い、いわゆる屋取の形態の濃い村落を形成している。

### むすびにかえて

今帰仁村の村落(字)変遷を、二回に分けて発表する予定が(上)

に属せしめ、其の邑は、仍、羽地県に属せしむ。……  
とある。祭温は、諸間切の山林を巡回し、狭い地域に集まっている村落の移転を図っている。そのころ、中頭郡では山林がすでに絶えた所もあり、北谷・読谷・越来でも、ほとんどの山林が絶えてしまう。国頭郡の恩納・金武・名護・本部・今帰仁間切でも、次第に衰えをみせ、羽地、大宜味・久志・国頭間切で辛じて残っているにすぎなかった。

そのころ、十数年も経てば絶滅してしまふとの懸念から、各間切の山林を巡視し山林の法のあることを示教した。  
当時、一ヶ所に集まっていた羽地間切の呉我・桃原・我部・松田・振慶名の村落を、山林外に移し、それら五村落の跡地は今帰仁間切の領分とした。

尚敬二十四年(一七三六年)の条の内容は、「呉我等五邑を以て、山林外に移徒して」というのは、羽地間切から同じ羽地間切内への場所移動であり、今帰仁間切から羽地間切への移動ではない。四(五)村落は、「琉球国高究帳」(一六三〇年代)の頃は今帰仁間切の属村落である。それら四(五)村落の今帰仁間切から羽地間切の移動は、一

六三〇年代から一七一三年の間のことである。  
四(五)村落が移動した後の故地は、羽地間切から今帰仁間切へと所有権が移った。二年後には、湧川村を新設してその山林を看守させた。湧川村の創設は、祭温の山林行政に伴う政策的村落ということになる。

### 上間村の新設・消滅

上間村は、「琉球一件帳」や「御当国御高並諸上納里積記」で、湧川村と同時にでてくる。「国頭郡志」や「南島風土記」に、「上間、湧川、寒水の三村を設け(新置し)とあり、それら三村落の設置年代を前者は「同三年(一七三八年)」と明示までされている。後者には、年代の明示はないが内容からして一七三八年の設置とうけとめられる。

上間村の設置年代についての文献記事はみることができないが、「旧記」(一七三一年)から「琉球一件帳」(一八三〇年)の間とみることが出来る。上間村は、一八七七年の「駅通寮地銘掛調査」(「南島風土記」)でもでてくる。しかし、一八九三年の「旧慣地方制度」では消滅している。一八七七年から一八九

註⑧「那覇市史」資料篇第一巻 二「琉球一件帳」三九一頁。  
⑨註⑧「御当国御高並諸上納里積記」御当国中村位定之事」一八頁以下。  
⑩「球陽」球陽研究会(読み下し編)三二―三三頁。  
⑪島袋源一郎「国頭郡志」四三三頁。  
⑫東恩納寛傳全集7「南島風土記」六三頁。  
⑬寒水村も、一七三八年の新設村落とされているが、寒水村は「琉球国由来記」(一七三一年代)に、すでにでてくる村落で新設村落とするのは、明らかに誤りである。

- ⑭島袋源一郎「国頭郡志」四三三頁。
- ⑮田里友哲「琉球大学法文学部紀要」史学・地理学篇第二十三号二三―二四頁。
- ⑯「今帰仁村史」一〇二頁。
- ⑰東恩納寛傳全集7「南島風土記」九十六頁。
- ⑱今帰仁村字諸志「二三」の上間仙信氏所蔵。上間氏の資料提供に感謝する。
- ⑲「今帰仁村史」部落各説九十六、一〇八、一一七頁。

仲原 弘 哲

### 長崎歌謡祭で優秀賞に

字仲根の  
宮里多起子さん



字仲根二二市主催で、全国民放(JNN)系三十一の宮里多起子さんが、九月十九日長崎公開堂で行われた「第六回長崎歌謡祭」で、二五人の出場者の中から優秀賞に輝いた。大会は、NBC長崎放送・長崎

市主催で、全国民放(JNN)系列二五局)推せんのアマチュアがノドを競ったもの。多起子さんは琉球放送推せん出場。びせかつ作詞・普久原恒勇作曲による「やんばる」を歌った。昼の部の予選を経て、五人が決勝に進出。夜の部の決勝戦では惜しくも最優秀賞は逸したものの、四人とともに優秀賞を獲得した。北山高校を今年三月に卒業した後、四月から琉銀今帰仁支店

に勤務。仕事が忙しく練習する時間がなかった、という分でも信じられなかった」という。中学二年の時北部北区音楽発表会で

優勝。村まつりカラオケ大会優勝。高校在学中にレコーディングも行った。今回の入賞も契機に「これからも趣味として歌い続けていきたい」と話してくれ

### 社会教育主事補を採用

村教育委員会では、社会教育主事補として八月二日付けで与那嶺悟さん(字諸志二〇七、二歳)を採用しました。村民の皆様よろしくお願ひいたします。



▲村教育委員会 与那嶺 悟

### 今帰仁村の村落変遷

筆者 紹介



▲仲原弘哲氏

沖繩、そして今帰仁村と言えば、私にとって古里です。「ふるさととは遠くにありて想うものなり」と、先人の詩をよく口に

した。次回の広報で紹介予定の「諸喜田福保勲職書」(仮題)。「任今帰仁間切地頭代」の辞令書はその一例です。先人たちの残した貴重な遺産は、多くの方々の目にふれることで文化遺産としての価値があるといえるのではないのでしょうか。また、調査研究に携わる者として、埋もれた資料を公表することが義務だと考えています。古文書の紹介を二、三回やっていく予定にしています。

これからの、今帰仁村を中心とした山原のフィールドワークを継続して行きます。自分自身の研究を深めると同時に、村民として地元へ何か還元できれば、いつも念頭にあります。今まで多くの方々の御指導・教示・協力がありました。心から感謝するとともにお礼申し上げます。これからも、村の歴史・民俗・言語(方言)の調査研究を進めて行くつもりです。また、御指導・協力よろしくお願ひ致します。

沖繩キリスト教短期大学・沖繩国際大学 講師 村文化財保存調査委員 仲原 弘 哲 (字謝名出身 三二歳)

### 昭和56年度共同募金実績(村社協)

①赤い羽根(56年10月1日より12月31日まで実施)

戸別募金	945,300円
職域募金	284,500円
個人大口募金	100,113円
法人大口募金	83,000円
街頭募金	32,205円
空募金	221,284円(村内小中学生)
計	1,666,402円

(このうち58万円が県内の福祉施設の充実のために配分され、残りの108万6,402円が村の福祉の向上のため使われています。)

②歳末助け合い募金

法人大口募金	3,000円
個人大口募金	24,000円
商工会空募金	25,320円
その他の空募金	2,276円
計	54,596円

※今年も10月1日より赤い羽根共同募金が始まります。村の福祉の発展のために皆様のご協力をお願いします。

※先月号(82号)の長崎豪雨災害救護金の中で、仲原薫とあるのは仲原照のあやまりです。お詫びして訂正いたします。

### 村育英会へ寄附

字今泊4507の嘉手納典一氏より村育英会へ10万円の寄附がありました。御芳志ありがとうございます。

## 湧川チームが大会二連勝

### 少女バスケット大会で

村教育委員会主催による「第三回少女ミニバスケットボール大会」が、八月二十九日午後十時から湧川小中体育館で行われた。これは、団体スポーツに親しむ機会の少ない小学校女子の体づくりの一環として行われたもので、今泊、越地、仲宗根、玉城、天底、湧川、上運天の七チームが出場した。

選手は一チーム十名で、常時五人が出場し他の五人は必ず一回は出場するという大会ルールのもとで熱戦がくり広げられた。前半・後半それぞれ十二分間という長時間にもかかわらず、各選手とも汗を流しながら元氣一ぱい。

決勝戦は一回、二回戦を勝ち進んだ湧川と仲宗根で行われ、練習量豊富な湧川が圧倒し大会二連勝を飾った。なお、優勝の湧川、準優勝の仲宗根に賞状、また参加全チームに参加賞が贈られた。



ボールを追う目も真剣そのもの。

## 行政相談週間

十月十七日から二三日まで

行政管理庁では、「苦情なくして明るい生活」をモットーに毎年十月に行政相談週間を全国的に実施しています。今年も十月十七日(日)から二十三日(土)までの一週間「親切・ていねい・迅速な窓口をめざして」をスローガンに実施されます。この週間は、国民の福祉向上と行政の民主的な運営を推進している行政相談制度の趣旨を広く一般国民に認識していただく



▲高良利実君 ▲当山須磨子(左)須賀子(右)さん姉妹

## 村から三人が出場

### 島根国体のカヌー競技

九月十二日から十六日まで行われた「第三回国体(島根国体)」のカヌー競技に、本村から三人の選手が出場しました。出場したのは、一般女子の当山須磨子さん(字運天二〇三、十八歳)とジュニア女子の須賀子さん(沖繩水産高校二年)姉妹、それにジュニア男子の高良利実さん(北部工業高校二年、字玉城四七)の三人。三人が出場したのは、五百メートルの直

線コースでスピードを競うカヤック部門。大会を前に、三人は八日村役場を表敬訪問。応待した内間村体協長(助役)は「国体に出場することは大きな意義がある。コンディションに気をつけ、実力を発揮してほしい」と激励していました。なお、大会に参加した三人とも準決勝戦に進出。特に当山須賀子さん、高良利実君は決勝で九位という好成績を納めました。

## 参加しましょう

### 第37回村陸上競技大会

■10月10日(日) 午前8時30分  
■村営グランド

なきじん版

10月1日～11月1日

# 村民カレンダー



10/1 金	○住民検診 (9:30~12:00、玉城、13:30~16:00、呉我山)	17 日	○ホッケー教室 (9:00、村営グラウンド)
2 土		18 月	○体育指導委員会 (18:00、中央公民館)
3 日	○兼次小、湧川中小、古宇利小中運動会	19 火	
4 月	○住民検診 (9:30~16:00、湧川) ○区長会 (14:00、役場ホール)	20 水	○区長会 (14:00、役場ホール) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)
5 火	○住民検診 (天底・勢理客 9:30~16:00 (天底公民館)) ○さとうきび大会 (14:00、与儀公園)	21 木	
6 水	○住民検診 (9:30~12:00、渡喜仁、13:00~16:00、上運天・運天) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)	22 金	
7 木	○住民検診 (9:30~16:00、古宇利)	23 土	○健康相談 (8:30~12:00、保健婦室) ○ホッケー教室 (14:00、村営グラウンド)
8 金	○社会教育懇談会 (14:00、中央公民館) ○住民検診 (9:30~16:00、役場、各字もれ)	24 日	○ホッケー教室 (9:00、村営グラウンド) ○村陸上記録会 (9:00、村営グラウンド)
9 土	○子供会リーダー研修会 (15:00、中央公民館)	25 月	○村農業委員会 (10:00、中央公民館)
10 日	○第37回村陸上競技大会 (8:30、村営グラウンド)	26 火	○子豚セリ市 (13:00、村家畜セリ市場)
11 月		27 水	○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)
12 火	○構造改善推進協議会 (14:00、役場ホール)	28 木	
13 水	○乳児健診 (13:00、役場ホール) ○家庭教育学級 (14:00、天底小) ○心配ごと相談 (13:00、役場ホール)	29 金	○1歳半健診 (13:00、役場ホール)
14 木		30 土	
15 金	○北部地区畜産共進会 (9:00、村家畜セリ市場)	31 日	○国頭郡陸上競技大会 (9:00、名護市営競技場)
16 土	○健康相談 (18:30~12:00、保健婦室) ○ホッケー教室 (14:00、村営グラウンド) ○肉用牛セリ市 (12:00、村家畜セリ市場)	11/1 月	

## 編集後記



■台風一過。涼しい秋の訪れです。本土では、一雨ごとに秋が来る—といわれるのが今の季節。スポーツや読書の秋。また、お酒のおいしい季節でもあります。

■各学校で運動会が始まりました。雨にたたられた学校もあり、逆に恵まれた学校もありました。行事で気になるのはやはり天候状態のようです。ともあれ子供達のはつらつプレーにまず拍手。

■やわらかに 柳あおめる北上の 岸辺目に見ゆ 泣けと如くに とうたった啄木の古里岩手へ行きました。全国広報研究会へ参加するためです。そこで修得した技術や意欲を今後の広報活動に活かしたい決意ですが、……どうなりますことやら。

毎月の締切に追われ、皆様の声を紙面に充分反映させているか、という疑問が心をよぎります。

■今月号では、村上、中原両文化財保存調査委員に原稿をお願いしました。忙しい中執筆された両氏に心から感謝いたします。